

昭和四十二年三月招集

第一回市議定例會會議錄(第八号)

館山市議会第一回定例会議録(第八号)

昭和四十三年三月招集

一、三月二十八日(木曜日)

一、議事日程(第八号)

第一 議案第四号乃至第十号

予算審査特別委員会委員長報告

第二 議案第四十二号 人権擁護委員候補者の推せんについて

第三 議案第四十号 館山市議会議員その他非常勤の職員

の公務災害補償に関する条例の一部

を改正する条例の制定について

第四 議案第四十号 館山市富浦町及び三芳村上水道組合規

約の全部を改正する規約の制定に

ついて

第五 議案第四十五号 館山市都市公園条例の制定について

第六議案第四号 館山市附屬機関設置条例等の一部を
改正する条例の制定について

午前十時五分 開議

議長(吉田勇治郎君) 本日より出席議員数 二十七名

ニハナリ 第一回市議会定例会第八日ヨリ会議を開会いた
します。本日より議事はお手元に配付ヨリ日程表により
行ないます。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

議長(吉田勇治郎君) 議案ヲ配付漏れはございませんが
—— 配付漏れなしと認めます。

日程第一 議案第四号乃至第十号 昭和四十三年度一

般会計並に特別会計予算案を一括して議題と
いたします。

ただいま議題となりました各会計予算案はともに
去る三月二十二日の議会で特別委員会に付議されたま
うであります。従いまして、こゝより本予算案に
対する予算審査特別委員会における審査の経過
並びに結果につき委員長が報告を求めます。

二四番議員 田中祿郎君 御登壇願います。

(二四番議員 登壇) (拍手)

二四番(田中祿郎君) ただ今議題となりました議案
第四号乃至第十号、昭和四十三年度一般会計
並びに特別会計予算案に係る予算審査特別
委員会におきます審議の経過並びに結果について
御報告申し上げます。

なお委員長は互選の結果、不肖、私がその職をつとめることになりまゐた。

去る二十二日の本会議におきまして選任さしめられた私も、予算審査特別委員会は二十三日二十五日の両日にわたり、委員会を招集いたし、まして各会計における予算を慎重に審査いたし、まゐた。

本予算案につきましては、去る二十一日、二十二日開会の本会議におきまして、いまだかつてなかったと思われるほど活発な御意見、御質疑に、よりまして、総合的な審議は、ほぼ、尽くさしめ、と考へますが、私ども、委員会といたしましては、本予算が、市勢振興の現況に即した健全財政が堅持されてゐるか、市民福祉の向上のため、生活環境の整備計画が、いかに具現されてゐるか、等を、中心に、議会、立場より、付託さしめられた

趣旨を体しまして慎重に審査を重ねたところでございます。
御承知のとおり本間市長就任以来終始一貫市政担当の根本理念として「かかげられております。」「観光施設」「整備」「産業」「振興」「教育施設」「整備拡充」の三大施策に対して、まず本年度は特に観光面では館山瑤望王計画の着手、城山公園における鳥類センターの開設、椰子並木路造成等農業面におきましては農業用水事業の促進、畜産関係では第三次構造改善事業としての採草放牧場の設置、水産関係におきましては、漁港整備をはじめ、漁業構造改善事業の推進、さらに教育部門におきましては、房南中学校の建設、北条小学校用地の買収、幼稚園の二年制実施等が予算化されております。なお、継続事業である市民センター

組合上水道事業、南部簡易水道事業の推進等は
 今まで立ちおきの感を抱かせておいた社会的・文化的
 施設の拡充として市民の大きく期待するところであ
 り、市当局の積極的な努力によりまして着実
 な歩みが続けられていることに対して、私も
 敬意を表するものでございます。

ただ、予算全般から申しますならば、重点的、かつ
 緊急的な施策と申す、突たる予算の執行によつて
 市民福祉の向上に寄与し得るものでなければなら
 ないこと、これは当然のこととてあります。

以上述べまい、このような観点から、審議さし、本
 委員会におきます質疑応答等、整理いたしま
 して、その概要について申し上げたいと存じます。
 まず、一般会計、歳出におきまして、総務費中、市

市連絡事務委託料についてでございますが、市と市民を直接つないでいる連絡員の果たす役割は非常に大きいものがあり、また、その事務量もかなり多岐を極めていると思われますが、この連絡員につきましては、ただ、委託料を払っておるからという考えでなく、待遇遇、改善、さらには感謝の意を持って会合を開く等十分それにこたえていただきたい。なお、市民への文書、広報、その他送達事務につきましても、市政を市民に浸透させる重要な業務でございますので、慎重を期すようお願いが、あります。

次に民生費中、青年館建設についてでございますが、青年館は、青少年健全育成、青少年教育の施設として、歓迎すべき施策であり、その建設を促

進んでいただきたいと思うが、この青年館建設に当たっては、どのような基準をもつて望んでおられるか、とう質問に對しまして、青年館は、果が五十万、市が五十万、地えが五十万、計百五十万の範囲で建設する、が、たてまえであります。

なお、青少年教育の施設ではあります、が、これを、その他、公的の使用にも供して、さうつかえないということから、その地域の要望等によつて、多少の増減は、あるを得ない、と、回答がありまして、

本委員会といたしましては、市内各所に設置された青年館が、本来の使命である、青少年教育の場から、離れて、いわゆる集会的な性格が強くなつてきている現状に、かんがみ、こゝが建設、運営、管理に、当りましては、十分なる指導、監督を、さしやる、さう強く

要望いたしまして。

次に衛生費についてでございます。衛生費につきましては、観光都市・館山を標榜する見地から、特に環境衛生の整備、清潔な町作りについて、数多く議論がなされてまいりました。

まずゴミの収集について、ポリ容器以外の収集については、現場作業員を督促してできるだけ、収集するところ、決意が本会議におきまして表明され、なお、容器以外のゴミにつきましても、名札等を付けさせる措置も講じられておるところであり、また、この点についても無制限に許可することは、収集能率にも影響をきたす。ひいては焼却面にも大きな影響が及ぶかと思われ、まず、清掃事業審議会等には、かり、はつきりした市の態度を打ち出す

べきであるとう意見がありまゐた。

また焼却につきまゝでは現在の一日平均十九トンの収集量から考えれば三十トンの焼却能力を持ちながら、なおゴミ捨て場へ捨てておることは納得できないが、とう質問に對し、まゝで

お説々とおり、現在まで多量の未処理をまゝに御迷惑をかけたりしますが、これはゴミの含水量の問題、従事する取員の技術の問題、一般からの搬入、或いは七月、八月の夏季における収集量急増の点等がおもな原因であつたと考えます。従いまゝで収集の改善と合せて、夏季における従業者の二交代制の実施、また焼却技術指導を強化して完全焼却に努力したい。なお七月、八月におきまゝでは現在の情勢から捨て場に捨てなけ

いばならない事態も予想されますので、こゝが薬剤散布にまゝります。消毒等につきまゝては十分意を用いていきたいと云うことであります。

次に農林水産業費についてでございます。

漁協合併につきまゝては、施政方針にも漁協の合併・統合による組織を通トて、漁業振興に努力を傾注して参りたいと述べておりますが、この合併の現況、また話し合ひの進捗状況についてただいまのところ

昨年六月第一段階といたしまして、館山、船形両組合の合併が実現を見ております。

残り十三組合につきまゝても目下一本化にということと話し合ひを進めておりますが、漁業権の問題、資産の問題、出資金調整の問題等が複雑で

あり、加えて漁業形態の相違からくる考え方の違
いなどにより、現在壁にぶつかっております。

なお、話し合いの過程におきましては十三組合の一本
化も一挙にはむづかしいので、その第一段階として半
分位に分けて統合してはという論議まで行なわれ
ております。――カー、あくまでも最終目標は市内
を一本化して統合でなければならぬという観点より、
あらゆる手段を講ずる。あらゆる機会をとらえて、
この実現に努力いたしたい旨の回答がございました。
本委員会といたしまして、その線にそって、館山市
漁業発展の一つの布石として早急に統合の実
現方を要望いたした次第でございます。

次に水産費中、養殖事業補助金、或いは投
石事業の補助金等が計上されておりますが、

二つうに對して本會議・委員會の質疑を通じて感
じられますことは事業実施の實態・効果の測定
にまで突っ込んで検討がなされていらないように思
われます。そこで水産課が設置さへば一番望ま
しいと思いますが、せめてそこに専門的な知識を
持った取員を配置して水産行政の強化をはかる
べきではないか。これに對する當局の見解をただ
いまうたところ。

現在では県の試験所とか専門家の指導によ
って行なっております。お話をうに専門取員
の配置につきまゝでは全く同感であります。下
取員の採用・試験に当たつても、それら人材の選考に十
分意を盡いて参っておりますが、なかなか、それら専門
家を市に呼べないが実績でござります。しかし

この必要性については十分認識しておりますので、今後御指摘の線にそって努力していきたい旨の回答があります。

次に高工観光費中、キャンパー対策についてでございます。本年度、市民防衛の観点からキャンプ場廃止を断行されたことにつきましては、賛意を表するものでございますが、実際、キャンパーの管理指導の面から考えますと、キャンプ場を設置しておいて、いかに要する努力よりも、廃止をどこまでも続けることの努力の方が非常に困難性があると思われ、またキャンプ場の廃止したことに、逆に市民に迷惑がかかることも考えられますが、いかに対処する市当局の心構えについて、ただいま申ししたところ、御指摘のとおり、キャンプ場を廃止することによりまう。

野放し状態ということであつて、かえつて市民に迷惑がかかることも十分考えられます。

一、市民のために廃止に踏み切つたのであります。かう万難を排して特に本年は第一年度でもありまゝ十分な準備体制を整えて市民に被害を及ぼさないよう最善の努力をいたしたい。なお、これが具体的な対策につきまゝでは、各海岸線における禁止標識の設置、館山駅に取員を配置する、或いは国鉄バス等との協力もいただいて駅頭、車内におけるキャンペーン禁止の趣旨徹底をはかる、さらに市若手取員、警察、警察官とつ編成によりまゝて各海岸線を巡視してこれが徹底を期する等々方法を考へてゐるとのことでありました。

本委員会といつても、廃止に踏み切つた以上、どこまでもその線にそつて市民に迷惑がかからぬやう十分警察とも連絡を取り、ヤンパー対策に当るやう強く要望いたしました。

次に土木費中、くじやく園開設についてでございます。城山公園におきらくじやく園開設についてでございます。城山公園におきらくじやく園開設は今年度における新規事業として市長の大きな一つ、施策であると考えます。

そこで本件につきましても、二小が開設に当りましては、単に指導を受けただけということだけでなく、もう少し突っ込んだ事前研究をいたさない。さらに飼育に当りましては、当初は大きな怪獣を持つてゐる専門の指導者に直接、

指導を受けるなりして是非、これを成功させるよう
要望いたした次第でございます。

次に消防費、貯水池についてでございます。

現在市内にある消防用貯水池について、その管理は
どうようになされておるか、なお新井、那古地区等
において、貯水池の上に家が建てられており、貯水池と
しての機能を失っている事例がありますか。当局
においては、この実態を把握しておられるか。また、こ
らに対しましては、市はどのように対処していくかという質
問に対しまして。

貯水池の管理責任者は市でございますが、市内
二百余カ所の貯水池の現状を把握することは、なか
なか困難性がございまして、実際問題といたしまし
ては、その所在が団が実情をよく承知しております。

ので修理等については分団の申し入れによつて行なつております。なおお話を新井那友の問題、野水池につきましても承知しております。

その実態につきましても建設当時のいろいろの経緯もありまゝで詳しい内容まで調査しております。が、なかなかむづかしい問題があると考えられます。いつかいたゞいても市の責任において早急に調べまゝで現実には野水池として機能が発揮できないことは遺憾に考えます。で、消防活動に十分支障がないよう努力いたゞいて回答がありまゝた。次に消防自動車、対物損害保険加入の問題についてでございますが、昨年の事故等から考えまゝして今後絶対的に事故がないとは言ひ切れない。

また現在、交通事情、或いは車両管理の上からも

万に備えての保険加入をすべきであると強く要望いたし
ましたところ。

財政当局とも十分相談いたしましてできるだけ御趣
旨にそうようにいたしたいとことでありました。

次に教育費、中学校の統合問題についてでございます
が既に教育委員会から計画案が示されて二年
議会でも再三論議が尽くされて参っております。

本年度予算を見ましてもこの統合推進のため
経費が計上されております。今後におきます
統合の進め方、またこれに取り組むための予算
措置について当局の見解をただいまいたところ。

現在の考え方といたしましては、四十三年度におい
て房南中学校の建設、次に北条小学校の建
築、さらに給食センター、二つが一応予定として

かかげられており、統合は、その次の段階になる
ます。現在、まだ、これが具体的な予算化
準備的な段階までいっておりません。はつきり
た予算、裏付けのある計画がでる前年度、或いは
前々年度において、統合推進費についても考えていた
という回答がなされました。

本件につきましても、すでに教育委員会としての計
画が示されている以上、これを推進するため、予算化
は必要であり、十分考慮されるとうとう意見があり
ました。

次に歳入市税についてでございます。

本年度市税の徴収率を九八％として予算に計上
されており、これは例年にも増して高率であ
り、まして果たしてこれが徴収可能であるか、その

自信についてなお、また四二年度の現況についても御説明願いたいという質問に対して、お話ししており、九八%の徴収率は相当の高率であり、非常に困難が予想されます。一かー四十二年度の収入見込みといたしまして、九八・二五%を見ており、現在より見通しからいたしまして、九八%の線にまでこぎつけらるゝのではないかと考えておる。

なお、二月末現在より収納状況は昨年同期と比較いたしまして、一・二%上昇率を示しており、納税組合の強化、その他あらゆる方法を講じて、この率を確保したいという決意が表明されています。次に入場税についてでございますが、本件につきましては、本会議のありにも質疑が行なわれたりしておりますが、そうとき明らかにされませんで、一は現状調

査について再度報告を求めましたところ、経営者
を訪ねて営業内容について調査いたしまして、
が、開業当時、うように鉱泉に入ることを目的に
くるお客はほとんどない。むしろ民宿的なもので
切りかえをいたしたものであります。お客は若い
人が大半であり、風呂は鉱泉と水道風呂と両方
ございましてほとんど水道風呂を使用しております。
なお現在では鉱泉だけに、お客は取っておらないと
の報告がありました。

次に特別会計国民健康保険についてであります。
本件につきましては被保険者が比較的所得者
層であることにかんがみ、また市民負担軽減の趣旨から
活発なる質疑が集中いたしたものであります。
保険会計におきましては財政危機からくる保険税

は、年々増嵩をきたし、保険税の生活に対する比重は、かなり大きいものがあると思われざるをあります。そこで、国におきましても、医療保険制度における抜本改正のために、特別委員会を設置して、あらゆる角度から、現行制度の問題点について、解明が行なわれております。

すなわち、医療給付の格差の問題、保険料負担格差の問題、診療報酬体制の適正化等々、さらに最終的には、健康保険組合、共済組合並びに国保組合の現行制度一本化の方向にあるかと考えられます。

かかる情勢下において考えられますことは、本年度において、事務費、財政調整交付金、或いは、その他補助金等においても、ある程度の期待ができてゐる。

ではないか。こゝを財政調整交付金について見ますれば、昨年度一昨年度の決算額は当初の予算を大幅に上回っております。

もちろん、こゝは、その年度における特殊事情があることもございましょうが、現在の国勢、又過去実績等から勘案いたしまして、本年度の計上額が果たして妥当であるか、こゝに對する見通し、考え方について、ただいまのところ御指摘のとおり、保険財政は市町村共通の悩み種でありまして、国においても現行保険制度の抜本改正を検討中でありまゝす。

国会にもすでに課税標準を百分の七十五から六十五に下げる法案を提出中であるということでございます。さらに財政調整交付金につきましても、

お話のように本年度は予算額をある程度上回わつたものが交付されるわけではないかと考えておりますが、これはあくまでも、その時点にならなければ、

確実な数字はつかめない状況でございます。

従いまして、二つ、交付金、或いは補助金等、確定いたします。六月におきまして、それらの様子を見つつ、現在が二三％増加率よりできるだけの軽減をはかりたいと考えている旨、回答を得た次第でございます。

さらに本委員会といたしましては、そのような基本的な考え方に立って、市民負担の軽減に当たりたいと思っておりますが、なおでき得るならば、一〇％程度に値上げの率をおさえるような考え方で対処していただきたいと強く要望いたします。

なるべく御趣旨に近いように委員会を要望に
応ずるよう努力するとう回答がありました。

合わせまゝ今後もしらに各種団体とともに国に
対して補助金等の完全交付を強く働きかけ一方に
おきまゝでは被保険者に対する診療態度等につ
いても十分な指導PRを行なう。もて医療費の
増大を防ぎ適切なる行政を行なうと力強い決意
が表明された次でありす。

なお、お手えに配付いたしまして、四十三年度県下二十
一市保険税調には委員会を審査を通りて参考
資料として提出されたものであります。御参
照願います。

次に簡易水道事業特別会計、鉦切水道について
ございます。こゝ水道に對しまして新規加入が

手続きはどのように行なうているか。また加入に対する
加入料金について、なお、これに関連して市に納める
金額以外に特別寄付と申しますか。それを納め
なければ施設ができない。加入させない。ということ
申してありますが、そういう事実があるのか。と質問
間に対して。

加入手続きにつきましては、給水区域内に加入希望
者が出まうた場合には、市が加入申し込み書により
加入工事を行なっておりまして、これに要する経費とい
たしましては、一般世帯として市がいただいております
のは一万円、そうほかには検査手数料として、条例に規定
してあるものをいただいております。

なお、特別寄付の關係についてでございますが、これ
は水道敷設当時、期成同盟会が結成されまして

その後、後援会的な組織に改められ、水道料金の徴収等に御協力をお願いされておる団体でございますが、この会が総会の決議に基づいて市に納める金以外に新規加入者については取っておることは事実でございます。ただ、これについても市は認めておるわけでございまして、多過ぎるということではございません。指導として参っております。

協力会制度にも問題点があるわけでありますが、認いづれに——ま——ても、水道には認可条件があり、認可された料金以外のもうを取ることは好ましいことではございません。認可条件以外、料金を取ることはおめさせるようにすると、回答があります。本委員会といたしましては、市が直営事業でありながら、後援会組織を持つことには、問題点もあり

今後十分検討され解消の方向で善処されるよう。
なお過去における特別寄付の問題につきましても、
この際はつきりしてこれを還付させるべきだと思ひます
ので、その線にそつて努力するよう合わせて要望いた
—ま—た。

次に南部簡易水道特別会計についてでございますが、
こゝにつきまゝて現在における工事の進展状況一部
給水の時期、或いは加入のPRの方法等について、
伺いたいという質問に對—ま—して

工事の進展状況でございますが、二月末におきまゝ
て総体的には四六%、三月については五三%の進捗
状況でございます。これを工事別に見ますと、取水
井戸については一本はくさくを完了し、管の埋め込
みを終つております。

もう一本の井戸につきまゝでは三月いっぱいでは揚水試験を完了する程度まで進んでおります。

配管関係につきまゝでは大体ハヤシの進展を見ております。なお河川のせき止めはくさくさを始める段階でございます。

浄水施設につきまゝでは五月末に完成できると考えております。従いまゝ一部給水につきまゝでは当初の要望もございまゝ七月から実施する予定でございます。

次の加入状況でございますが、現在五〇％程度でございます。このPR加入の話し合いにつきまゝでは全般的に手が回りませんので今後区長さん、部落の役員さん等と話し合いの計画を立てておりますが、まだ実施しておらないと

ことでありました。

以上委員会におきます審査の概要を申し上げたのであります。施政方針にも述べられておりますとおり、本市の経済構造の上からは本年度におきましても歳入の伸長率にはあまり期待できない反面、歳出においては給与改訂による人件費の増、地方債償還額の漸増、諸物価の高騰による経常的経費の増嵩等々本市の財政はきわめて多難なものであらうかと思ふさいます。

加えて地方自治体の事務事業は時代が進展とともに益々複雑多岐をきわめ、市民福祉のため、各種事業が山積している時、今後、予算の執行に当たっては十分研究検討をきまいて、経費の節約、予算の合理的な執行により、市財政の健全化を期し

もて市勢伸展に最大努力を傾注さるるよう
強く要望した次第でございます。

以上付託を受けました議案第四号 乃至第十
号 昭和四十三年度一般会計並びに特別会計
予算案はいづれも原案通り可決すべきものと
決定いたしました。

ここに予算、審査特別委員会におきます審査
経過並びに結果について御報告申し上げた次第でござ
います。

よろしく満場、御賛同を賜われますようお願い
申し上げます。（拍手）

議長（吉田勇右郎君）以上で委員長、報告を終り
ます。

ただいま委員長報告に対して御質疑ございま

せんか。―御質疑なしと認めます。

おはかりいたします。

本案に対する討論は、二を省略することに御異議
ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よう
討論は省略することに決まりました。

（いす）議案第四号乃至第十号を一括して採決
いたします。

本案に対する委員長報告はいずれも原案可決
であります。

本予算案を委員長報告通りに決することに御
異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よて議案第
四号乃至第十号昭和四十三年度一般会計、並びに特別会
計予算案はいすも原案通り可決さいます。

この際市当局に申し上げます。ただいまう委員長報告に
ありまいた数々が要望諸点は今後新年度予算の執
行並びに行政執行に当り、十分検討さひ、市民福祉向
上に努力さいますことを希望いたします。

なお申し上げます。議員のみなさま方に委員長報告を
を後刻印刷いたしましてお手もとに配付することにい
たします。

暫時休憩いたします。

午前十時四十一分 休憩

午前十時三十分 再開

議長(吉田勇右郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

こゝより市長より追加議案に対する提案説明を求めます。

(市長登壇)(拍手)

市長(本間 譲君)本日定例市議会最終の会議を迎え議員各位には乍多忙中にもかかわらず約一カ月の長い期間にわたって昭和四三年度予算その他関連する諸議案の御審議をたまわり感謝にたえない次第でございます。

そこで本会議も本日一日をもって終了するわけでございますが、当初追加議案としてあらかじめお含みをお願いしました急施を要する案件が五件ほどござ

います。上程に於てお願いの方々御説明を申
—上げたいと存じます。

まず人權擁護委員のうち一名の死亡によりまして
その後任者の推薦をいたいたく議会に同意を
願います。

次に昨午上月地方公務員災害補償法を施行に
伴い本市議会議員等非常勤職員に對します
公務災害補償条例を制定公布にわけてござい
ます。同法中施行日から五カ年以内に職員が公
務上死した場合には遺族補償の支給に關す
る暫定処置の一部が改正されまして、急拠金を
改め補償の適正な運営を期せんとするもので
ございます。

次に飯山市富浦町及び三芳村上水道組合が地方公営

企業法の一部改正に伴い、全面法、強制適用となります。
関係から同組合より規約の全部を改正したい旨の協
議がありまして、議会、承認を求めようとするも
のでございます。

次に都市公園条例の制定でございますが、これは都
市公園の健全な発達をはかり、公共の福祉を増進し
合わせて、観光都市拠点施設の整備にも意義あ
らうめるよう、都市公園法を規定するも、うほ、館
山、城山公園をはじめ、神島公園、中村児童公園に
ついて、設置及び管理の適正な執行を期するため
に条例を制定しようとするものであります。

次に付属機関設置条例の一部を改正する条例の
制定であります。が、都市公園条例の制定と関連して
城山公園内にくじやく飼育を中へとする鳥類センター

ーを實現させるべくニハウクヒヤク園の運営に關
 審議會を設置ーまたニハウ非常勤特別職にか
 かる日額報酬についても条例の中に加えようとする
 もふあります。またニウ中に結婚相談員等の
 月額報酬についても新たに加えてありますか、
 ニハ市民特に農漁村等々後継者に対する結
 婚相談を積極的に推進ー市民福祉の増進を
 はかるために結婚相談所を開設すべくニハ相談
 員等を専門委員として委嘱したく存じます。で
 ニハ委員に対する月額報酬を条例化しようとし
 るもふあります。ニハが運営につきまては、
 果々指導もありました。で結婚相談所設置運
 営の規定により運営ー利用者へ申し込みによ
 相手方へ選定紹介に当るわけでありすが結婚

が整ったとき、予算の範囲内において記念品の贈呈も考え、健全な結婚の成立を心から祝福しようというものであります。以上簡単に申し上げましたが、詳細につきましては、関係課長をして説明を申し上げます。よろしく御審議をほどをお願い申し上げます。次第でございます。（拍手）

議長（吉田勇治郎君）日程第二、議案第四二号について、説明を求めます。

（市長登壇）

市長（本間譲君）人権擁護委員の後藤ゆきさんがなくなりました。その後任を選任するように通知が参りました。そこでここに左の方をお願いしたいと思うわけでございますが、館山市館山八六五、一番地永井たき、明治四十一年四月十三日生まれ、この方は現在館山市で

助産婦、会長を兼ねておられます。また日本産婆学校看護婦、学校を卒業されて横濱市、館野国民学校養護員として奉職されたこともある方でございまして、私はこの方がもっとも適任だと思ひまして御推薦申し上げてみなさん方御同意を得たいと考えておる次第でございます。よろしく御審議願ひます。

議長（吉田勇治郎君）御質疑ございせんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。本案を討論省略採決することに御異ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よろ、本案は原案通り可決さいます。

日程第三議案第四十三号について、説明を求めます。

人事課長(小沢正治君) 議案第四十三号について御説明申し上げます。

館山市議会議員、その他非常勤、職員、公務災害補償に関する条例の一部改正。これは去る十二月一日に公布いたした条例の附則の改正でございますが、改正の内容でございます。附則第三條第二項各号中に「一時金が支給された月の翌月」という言葉がございます。それを「一時金が支給された月後最初、遺族補償年金の支払い期月」というふうに改めるといふものでございますが、簡単に申し上げますと、非常勤、公務

員が災害補償で死亡された場合に遺族に対する遺族年金でございす。その支給さいる権利がある遺族から、この条例施行の日から五年以内にそういう事態が発生した場合にこの年金にかわつて一時金の請求をした場合には一時金を支給することができる。その一時金の額が支給された遺族に対してましては、その金額に対して年利五分の計算で遺族年金が支給されて、期間中、その年金を停止するという内容でございす。その期間の計算の時期を一時金が支給された翌月というのを一時金が支給された月とあつて、最初にその年金が支給さいる期月というふうに改めるものでございまして、これは遺族に対して、期間のいわゆる年金の停止期間が若干有利になるという改正で

でございます。それでこの関係が法律公布の時点の十一月一日にさか上^上る適用さるるように改正になりまして、たゞ本条例もこれと歩調を合わせまして一応十二月一日にさか上^上る適用するということに改正したいというもろろでございます。

議長（吉田勇治郎君）御質疑ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さします。

日程第四議案第四十四号について、説明を求めます。
衛生施設課長（吉田耕一君）議案第四十四号につきまして御説明申し上げます。

今回たゞいま市長から提案の説明がございまして、館山市、富浦町及び三芳村上水道組合の方から、全面的に規約を改正したいという協議がございまして、自治法で定めるところによりまして本議会が議決をお願いしようというものでございます。

本組合につきまゝでは昭和三十九年に皆さま方の御決議をいただきまして三十九年十一月十六日に認可になって発足し、現在に至っておりますわけでありまして、そう過程におきまして四十一年の企業法で大幅に

改正に伴いまして、こゝ上水道組合の名称、その他関係の諸条例等、改正が行なわれなくてはいけないということに相なつたわけでございます。

たまたま四十二年の四月一日から施行ということであつたわけでございますが、附則等、適用をいたしまして、昨年組合議会、議決をいたさしまして、一年間の延期をいたしまして、従来、組合会計その他事務方式で進んで参つたわけであります。が、一年を過ぎまして、四十二年の四月一日から、完全法の適用を受けるといふうに相なつたわけで、今回の全面の規約改正をいたしたい。このように考えるわけでございます。

まず、改正の概要でございますが、地方公営企業、経営等があまり、かんばしくないや、だ、という現在、点からいたしまして、これが健全化を促進するため、地方公営

企業制度の調査会に對しまして二、諮問をいたわけ
てございます。その答申の趣旨に基きまして四十一年
の改正が行なわれたいということでございます。

大体骨子と申しますか、それにつきましては御案内のよう
に本来の目的でございます。公共の福祉の増進を
ながら企業として合理的であり、かつまた能率的
な經營を確保できるやうに企業会計、一般会計と
間におきます。ところの經營の負担区分の原則を確
するとともに、いわゆる管理者制度、或いは職員の身
分の取り扱いに對しまして、一部組合制度等につ
いて、所要の改正を加えたわけでございます。

合をせまして過去企業会計につきまして、すでに生
じております赤字を計画的に解消するため
財政再建案等も合せて改正の要旨いたしたと

いうのが改正の大きな概要でございます。

従いまして、定めによりまして、ここにございます三市町村の組合規約を全面的に改正いたしたいというわけでございまして。

議案について御説明申し上げたいと思っております。

従来の館山市、富浦町、三芳村上水道組合の規約でございしますがこれを「三芳水道企業団規約」にいたしたい。このように考えるわけでございまして、第一章の総則には企業団の名称をまず規定しようというものでございまして、この企業団は「三芳水道企業団」以下「企業団」というふうにいたしたい。このように考えるわけでございまして。

二条につきましては、企業団の組織する地方公共団体いわゆる企業団組織はどう公共団体であるかという

ことをここに規定いたしまして館山市 富浦町 三芳村をもつて組織いたしたい。このように考えるわけでございます。

第三条につきましては、企業団で共同処理いたします事項をここに明確化しまして一、二、三とあります。ものを規定いたしたいと考えるわけでございます。

第四条でございますが、企業団の事務所を規定したわけでございます。とりあえず、現在う市役所内を一部にお貸りいたしまして、事務所といたしたいというふうに考えるわけでございます。

二章 企業団におきますところの議会と関係をつたつたわけでございます。五条に企業団の議会議員の定数を「十五人」といたしまして、関係市町村の館山市 富浦町 三芳村 二つ三つ市町村に対して

の定数を合わせて総体の十五名の案分によりまして
「館山市八 富浦町四 三芳村三」ということで定
数を十五名といたします。なおこれにつきまゝでは
企業法によりまして十五名以内ということになる
おりますので、この企業団につきまゝでも最高
十五名を一応定数といたらない。このように考えるわ
けでございます。

六条の議員の選挙でございますが、議員は関係
市町村において当該議員の中からその選挙
をする。このように考えておるわけでございます。

七条の議員の任期でございますが、従来組合当
時にもお願いしておりましてたうな考え方でここに
議員の任期につきまゝでは、その所属いたします
市町村の議会議員の任期によるんだということ

にいたらないと考えるわけでございます。なお二
項につきまゝて、欠員を生じたとき、措置をこ
こに規定したわけでございます。すみやかに当該議会
におきまゝて補欠議員の選挙を行なう」という
ふうに規定したわけでございます。

なお三項につきまゝて、補欠議員に対しての任期
を「前任者の残任期間」といたらないと考える
わけでございます。

八条でございますが、三三に「議長及び副議長を置く
ということを企業団議会ではつきり明文化したわ
けであります。

二項につきまゝ「議長副議長は企業団の議会
において選挙」といたなくというふうに考えたわ
けでございます。

三章につきまゝでは企業団の執行機関を規定しよう
というものでございます。

九条につきまゝでは組織を規定したわけでございます。
「企業団に企業長及び理事を置く」というふうにした
一たいと考えるわけでございます。従来組合でございま
したときに管理者というふうになるわけでございますが
企業団につきまゝでは企業長と改められたというわけで
あります。

二項ははつきりとそう企業長を明文化していきなにと
いう考え方でここにございすように企業長につきま
しては「館山市の市長の職にあるもの」とはつきりと
明文化したわけでございます。

三項の理事でございますが理事につきまゝでは関係
の「富浦町の町長 三芳村の村長 及び館山市の助

役~~り~~職にあるものも理事として定めていきたい。
このように考えるわけでございます。

十条でございますが、監査委員の規定でございます。
監査委員につきまゝては、企業団に二名の監査委員
を置くというふうに明文化したわけでございます。

二項におきまゝて、監査委員については、熊山市の監査
委員の職にあるものをもって充てて参りたい。このよう
に考えるわけでございます。

十一條の補助職員でございますが、企業団に企業職
員を置きまゝて、企業長が任命するといふふう
に規定したわけでございます。この企業職員の定数
につきまゝては、企業団の議会の議決を登まゝて
その定数を定めたい。このように考えるわけござい
ます。

四章の企業団の経費でございますが、十二条で支弁の方法といつてまいって、この企業団の経費につきまゝては、使用料、公債、財産より生ずる収入、その他の収入をもつて支弁いたします。

なお不足いたしますときには、この企業団の議会の議決によつて、関係市町村に分担するやうなということでございます。

二項につきまゝでは、関係市町村の分担の割合をここに上げたわけでございます。

熊山市の十分、七富浦町の十分、二、三芳村の十分、一といつたやうなことでございます。こゝで支弁の方法につきまゝでも、従来の一部事務組合の経費の支弁の方法につきまゝでは、こゝのような方法をもつて従来やつておつたものとございます。

なお附則の点でございますが、この規約につきましては知事の許可があった日から施行いたしまして四年三月の四月一日から適用するということにいたらないと考えるわけでございます。

なお企業団の議会議員定数と関係でございますが、五条の規定で十五名となっておりますわけでございまして、これを附則でもうたいまして、五条の規定にかかわらず、この規約が新たに適用される際に現在に在任いたします議員の定数をもつて昭和四十五年十二月三十一日まで企業団議会の議員の定数といたらない。このように考えまして現在が二十名をもつ定数ということとで、四十五年十二月三十一日までいきたい。このように考えるわけでございます。

三項につきましては改正後、規約の八条の規定により

ます。議長及び副議長でございますが、改正後、規約が新たに適用される際、現在在任いたします議長及び副議長をもつて企業団において選挙された議長及び副議長といたしたいという事で附則をもつて、これを明示した次第でございます。以上、ような関係からいたしまして、この規約を全面改正をいたしたいという事で協議でございます。自治法が二百九十条の規定によりましてお願いいたします。ごいます。

・議長(吉田勇治郎君)午前者会議はこれにて休憩といたします。

午後 零時三十分 休憩

午後 一時三十分 再開

議長（吉田勇治郎君）午後、出席議員数二十五名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第四十四号に対する質疑を求めます。

三番（関武夫君）公営企業法の改正によつて一部組合の水道が公営企業団になつた。これは法のたてまえで、ちむを得ないことでございますが、普通の特別会計でやつたよりも、いさう独立採算制を強く要請されておることと申します。この程度、規模で企業団として運営していくわけでございしますが、その衝に当る方たちの御苦勞をお察しするわけでござい
ます。

私十二条に対してお尋ねいたしたいと思います。

十二条に「この企業団の議会の議決により、関係市

町村に分賦する」ということであります。そうすると
企業団の議会がこれだけ不足だから、これだけを三市
町村に割り当てるといふことをきめますと、あたかも我
々が税金を納めるように三市町村は自動的にそこに
負担しなければいけない義務が生ずるようになり、取り
つてございますが、果たしてそうでありまうか。
お尋ねいたします。それから十二条、最初の方の
文章ですが、経費は収入からで足りなければ三市町
村に分賦するのだというわけでございますが、公営企
業法によりますと、地方公共団体、一般会計から出せる
性質の経費というものが、相当制約されておるようで
ございますが、それと本文の条文が抵触してはいないか
そういうふうに感ずるんですが、この点について御説
明願いたいと思います。

それから二は条文にはありませんけれども、関連性が
あります。で、お尋ねいたします。この四月一日から
企業団が発足する。であります。が、企業団の帳簿
は簿記、原則にのつとたところ、帳簿を備えな
ければならぬということになります。そういった
事務的な準備がすでにできているか、お尋ねいた
します。従来、三市町村から多額の投資をして
そこに施設ができて、いるわけでありまして、この四月一日か
らは、そういったものは、その帳簿上の額というものは、どう
いうふうな処置になるのか。今までの経費は落して
一まうのか。

それとも、三市町村の、出資金として、負債の方に計
上して残すのか。その点についても、お尋ねいたしたい
と思っております。

衛生施設課長(吉田耕一君)お答え申し上げます。第一点
でございますが、こゝに面が義務づけられた負担か
どうかという結論だと思いますが、企業法が十七条の
二によりまして経費負担の原則という段階におき
まして一口に言えば、その事項にあてはまるようなも
のであれば、義務づけられるのだとはつきりなっており
ます。

一例を申し上げますと、公営企業を経営で政令で定
めるものは、地方公共団体が一般会計、または他、特別
会計において出資、長期の貸し付け、負担金、
支出、その他方法により負担するものとすとい
うふうにはつきりとなっております。

従いまして、さうちが第一項によりますと、性質上、
該公営企業の経営に伴う収入をもつて充てることが

が「適当でない経費」というものが、まず第一項で上
 っておるわけでございます。二項につきましては、当
 該地方公営企業の性質上、能率的な経営を行な
 つても、なおその経営に伴う収入のみをもて充てるこ
 とが客観的に困難であると認めらるる経費」という
 ことで、一口で申し上げますれば、そうなるような面につい
 ては、義務づけられておるといふ面等で、企業法の改正
 で、そういう負担区分が明確になつてきたという点に、改
 正のおもむき關係になつておるわけでございます。

それから従来の關係、市町村からいわゆる負担金と
 して取つたものについて、処置でございしますが、そ
 うしたものに、つきまゝでは、一応改正によりまゝで、
 取得いたしまゝの財産というふうなものにつきまゝ
 ては、これを今度ひきづくということになつておるわけで

でございます。

それからなお関係の帳簿類でございますが、帳簿類につきまゝては現在作成中でございます。なお明日組合議会を招集願つておるわけでありまして、それまでに要する規約の変更とか、その他関係条例並びに関係の規程規則あらゆる面におきまゝの整備を現在急いでおるわけでありまして、議会に提出いたします。関係条例規約変更等については、一応作成済でございますが、それに伴います規程規則というふうなもの等につきまゝては、現在ある程度できております。大体以上のような状況で現在進めておる次第でございます。

二番（関武夫君）またお尋ねいたしますが、従来負担金として出たものは財産に附する。三市町

村の支出資金という形で残す。こういう答弁のよう
に感しておりますが、そう理解してよろしいか。
それから帳簿も簿記の原則に従う用意がある
というように解りたいと思います。そこで最初にか
えりまして十七条の二第一項、二項は書きいて
あります。具体的に申し上げます。どうい
う経費の負担金として分賦できる経費であり
ましょうか。御説明願いたいと思っております。

衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。

わかりやすく申し上げますと、現在やっております
水道事業で申し上げてみたいと思っております。水道で
ございます。私も組合がござっております。水道で
水道法に基くところの消火栓の設置ということか
あるわけです。そういうものは当然、地方公

共同体が負担してやるべきものなんだということか明文
化されておるわけでございます。それからなお、
公園とか道路とか公共用に供しますところ、水飲
み場その他公共のために用います施設において
水道を無償で公共のために要する経費とい
う言葉で出ておるわけでございますが、そうい
う方面もいろいろあるわけでございます。一々
あくまでも独立採算」という面を基礎にいたしま
して、今後、企業運営をやるんだという考え方で、こ
れが改正もなされておるようでございます。お答え
にならないかと思いますか。以上、お答えにかえま
していただきます。

二番(関武夫君) 金くお答えにならないうわけ
ですが、私、十二条を開きまう趣旨は、この条文によ

りますと、企業団の収入というものは、それだけ経費がかかるうだ。もし足りなければ、三市町村に分賦するのだという条文です。公営企業法によりますと、自治体に分賦できる性質の経費というものは、きめられておるわけです。それに該当しなければ、第三条最後にありますように、その経費は収入をもつて充てなければならぬと書いてある。そうしますと、何年かは、この企業は大へんな困難な企業だと思わうわけですが、その少ない収入の中から出なければならぬというものが、案外多いのではないかと思つた。たとえば人件費とか、需用費的な経費だとかいうものは、分賦できますか。できないうてはないんですか。そういった点を私に配しておるんですか。その点御説明を願います。

衛生施設課長(吉田耕一君)分賦の問題でございますが、
一般会計と企業会計というふうなものでございまして、その
原則を先ほど申し上げたわけでございます。——かなりな
から、この範囲というものが、これが本当の企業団か
やるべきもので、それから一般公共団体が実施する事
業というふうなものという関連がなかなかむづかしい解
釈だというふうに考えるわけでございまして、一応今
回の法の改正によりまして、具体的に政令で規定
された経費につきましては企業会計は一般会計
等に対して権利としてその負担を要求できるのだ
ということもあるわけでございます。それから一般
会計等は企業会計に義務といたしまして負担
することとなり、市はそれ以外を経費については
一般会計は企業会計に繰り出さず、できないんで

はないのだということがあるわけでございますが、制度
 上におきます負担区分では一般会計等が負担
 する経費につきまゝでは、その経費の性質上、本
 業の性格に応じまゝで負担すべきであるとされて
 いるものについては政令で定めるものがさつき申上
 げたものがあるわけでございます。――カーニ
 の経費以外にたとえば災害の復旧に要する経費
 のうち、臨時的な創外的な場合もある――こ
 ういうものを一応考えまゝで負担をしていただく。こ
 っちの条例では分賦するのだということになってお
 りますが、それを関係の市町村で負担していただく
 ということが、この十二条でございます。なお人件費
 等につきまゝでは、当然企業として経営能力に
 入れば十分あるわけでございます。――カーニから、そ

以外の特に多い起債等、償還に充てますのに結局不足をきたすというふうな事態が現在あるわけでございます。なお、今度も事業工程が続くわけでございますが、そういうふうな場合には分賦による会計方式で申しますと、出資金と申しますか、負担していただくのだということでも考えておるわけでございまして、なお、この事業を發足いたします過程におきましても、一応不足を生じた場合には、関係の市町村でも、御負担をして分賦していただく。この事業を完成していただくという当初の方針でございますので、今回もそういう規約を作つて進めていきたい。このように考えるわけでございまして、ただ單なる人件費のみ、どうこうでなくて、いわゆる経費事業費と申しますか、工事費等を中心として、今後十分

考えてもらう面々御負担が少ないような方向へとも
つていくということでございますが、二十三条につきましては
ては、こういう方法の規定しておきたい。このように
考える次第でございます。

・二番(関武夫君) 最初に申し上げましたように、地方公
営企業法の改正によつて、これは自動的にどうしても
企業団として発足しなければならぬことなんでござ
います。三芳水道企業団の規模というものは、水道
事業としては決して大きいものではなない。むしろ小さい
わけなんです。が、こういう小さいものを企業団とし
て特別の独立会計を持たなければならぬという
ことは、経営上非常にむずかしい問題が起きて
くると思う。それを憂へまして、今までの質問をいた
わけてございますが、長くなりますので、一応この

初で打ち切ります。が、企業団の会計内で支出をしなければならぬ経費が相当ある。でありまして、その経費の衝に当る方々は、大へん御苦勞な随分苦になさる。ことと思います。で、こゝ上とも、企業団の発展のために御尽力下さるようにな願ひ申し上げまして、質問を終ります。

○九番(島野茂樹郎君) 条例について特にいうことはございませんが、先ほど課長が提案説明の際に前段でお話がありました赤字の発生ということと、財政の再建案を作成して提出するというようなことから、さうと言われまして、その辺のことを今、少一詳しく御説明いたしたい。さういふふうに考えます。

○衛生施設課長(吉田耕一君) 説明の中ういやる生じました赤字を計画的に解消するために、財政再建

というところでございますが、これを講ずるのだというこ
 とでございまして、これは今回の改正によりまして、従来
 の方法等によつて、こつた企業の会計というふうな
 ものが、相当全国的に赤字を生じておるといふのが、
 現実でございまして、こつた面をこれを機会に改正
 の中で取り上げまして、これを解消するようないわ
 ゆる国等の援助と申しますか、こつた措置を講
 じていくんだということとございまして、従いまして、こ
 した地方公共団体や実施いたしますところの企業団が
 少くとも早く自立できるような再建方法といつたま
 て、こつた措置を取つていくということとございまして
 その手続き等につきましては、その運用内容、或いは
 財政の規模、内容、いろいろ手続きの内容がある
 わけでございまして、こつた面を基礎といつたまゝで

政府が取り上げて再建へう道を講じていくというように改正になつてゐるやうに私も見ておるわけでございます。九番（島野茂樹郎君）地方公営企業法を見ますと、要するに四十三条以下にある財政の再建について、この法を適用して自治省に再建計画を出して承認をうけてもらつて、そうして国が援助の措置をおおぐんだ。こういうことですか。了解します。

一三番（山田教字君）企業法々ことは大体わかりまーなが、付随的なことなんですが、市長さんにお聞きーたいんですが、市長さんは水道に對いまして、将来果敢に移管ーたいということをおつちまつておたわけでござい
ますか、将来できるならば果敢に移管ーしてもらえば、大へんいいと考えておりますが、それに対するお考えと今後という方向に持っていけるか、御参考に

お尋ねいたいたいと思います。

市長(本間 讓君) 水道が県営につきまゝでは、知事が最初
言い出されたわけですが、その線にそつて、県が水道の
調査費を最初一千万が削られて、五百万になりま
して、安房郡、館山市の水資源の調査を行なつた
わけでございます。五百万位までは、十分な調査ができ
ないわけですが、一か一かにならう、よく調べた地点もあるん
ですけれども、現在、広域行政が環境衛生部面
でいろいろ検討してあるわけでございますが、県と
も、そういう方向で進みたいというのを、考えがもとに
そういうことを打ち出してあるわけでありまして、か
なかなかに、これは容易ではないと思ひますけれども、私
は、広域行政を通じて、安房郡を幾つかに分けて、
水道事業を県営に持つて、いろいろやっていただきたい

という考えを現在も持っておりまして、これからやはり、その線で知事に運動をしようと考えておるわけでございます。

水道事業というものは、一時に金を十分かりなければ、収入がないわけですから、現在は国民生活の向上、水の需要量が非常に多いわけですから、ですから、水さえあれば、たくさん金がかかって、御心配なさる面もありまして、けれども、明日からでも、収入がはかまるわけではございまして、いままま、いつでも問題は少ないんではないかと思ひますけれども、この企業団に改組する組合水道におきまして、最初、計画とは違ひまして、ダム、土質の関係上、やはりなおしするところになり、相当額越えるわけではございますけれども、二、三がすつかりできたりして、現在、情勢で

は需要に対してなかなか満たせないようなふうにな
 きはーないかと思っております。やはり水源池とい
 うことを考えますと、館山市としても、館山市全域に
 対して大きな水源池を作る必要があると思ひます。
 そういふ面からしてもやはり、県の方で考えていただく
 ことかいいと思ひます。知事にも、これから運動し
 て、実現がはかれるように大いに運動して参りたいと
 考えます。

・二五番(田村源治郎君) 二点、お伺いしたいと思います。
 九条の企業長ですが、議会の企業長と反対の立
 場を表明する。この場合いかに運動していくか。

解散権というものは、企業長は持っていないのか。
 もう一点は十条に監査委員を二名置く。館山市
 の監査委員の職にあるもの。この前には一三番

議員、山田監査委員一名であつた。館山市に一名しか
かくても二名であるのか、それうゝ点をお伺ひします。
・衛生施設課長（吉田耕一君）九条の企業長の権限と
申しますか、これは従来が案の上から参りますと
特別職に準ずるものとなっております。――カー
ながら、この企業長は関係市町村のものとあつて
實際の事業、業務に携はるといふことでございま
して、議会の解散権とか、そういうような権限は一切
ございません。――そういうような関係で企業長を任
命するのは、関係市町村長が任命するのだ
ということになりまして、普通、地方公共団体
におきますれば、議会の議決というふうな面になる
かと思ひますが、――そういう点も今回、改正で省
かれます。――関係市町村長が任命といふことで扱

っておりますので、この場合にも、実際の場合には、解散権はございません。

監査委員を二名置くというふうになりました理由でございますが、従来は二名という定数は定めてございませんでした。「上水道組合」の監査委員は館山市の監査委員の職にあるものを充てるのだというふうになつておたわけでございます。一か一ながら今回の改正によりまして定数というふうなものを明確化するという点から、ここに定数を二名と定めたいわけでございます。従いまして、この二名というのをまたまた館山市の監査委員も二名でございまして、二項におきまして「館山市の監査委員の職にあるものを」と願いたいというふうに作ったわけでございます。

三五番（田村源治郎君）企業長は議員に諮問するような

立場が生じてくるように伺われますが企業長の権限はどこにあるか。一つもないのか。もう一回説明をお願ひします。

・衛生施設課長(吉田耕一君)企業長は一切の事務、工事、いろいろの会計、業務というふうなものを企業長の権限にまかす行なうのだということでごまかして。なお議会の議決をいただきます。限度につきましては、別の規則に定める額等は認めるわけでごまかします。

そういうふうな関係で企業長というものの職務はきわめて従来よりも大幅の改善がされてきておるということでございます。

・議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございませんか。なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

おわかりいただけます。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さふました。

日程第五議案第四十五号について説明を求めます。
土木課長(飯田治男君) 議案第四十五号 館山市都市公園条例の制定について申し上げます。

こゝたび長年の懸案であつた城山公園が国と市賃貸契の約り運びとなりまゝになつて、こゝ議会に館山市の都市

公園条例を制定いたしまして中村児童公園、沖の島公園と合わせまして市民が真一いついいう場としての維持管理に万全を期したいと考えております。

条例を条文を追って御説明申し上げます。

第一条の目的でございます。この条例は都市公園法、

(昭和三十一年法律第七十九号、以下法という。)十八条

の規定に基づいて都市公園の設置及び管理に関し

必要な事項をこの法律及びこの法律に基く命令で

定めるものほか、都市公園の設置及び管理に関し

必要な事項は、公園管理者である地方公共団体の

条例で定めるといふふうに規定されております。

次う第二条う定義でございますが、この条例におい

て、次う各号に掲げる用語の意義はそれぞれ当

該各号に定めるところによる。

一 都市公園 ニ公園施設 都市公園の件でございまして、法二条第一項に規定されておりますのは、都市計画区域内において、地方公共団体が設置した公園、または緑地または都市計画決定された都市計画の施設である公園、もしくは緑地で、地方公共団体が設置したものを一応都市公園ということになっております。それらの地方公共団体が当該公園または緑地に設けた公園施設も含めると、いうことでございまして、都市公園とは、仮に土地に都市公園を設置をしまして、公共団体の方で公園施設をほどこしても、それは都市公園ではない。一から、都市公園というものは土地並みの物件に対して一定の権限を市の方で持つてなければならぬ。一定の権限と申しますのは、地上権、所

有権・貸借権　その他　それらに對しての所有者の
同意がなければ都市公園の對象にならないという
ことでございます。

二、公園施設でございますが、これは都市公園法に
おいてきめられております。「公園施設とは都市公園
の効用を全うするため、当該都市公園に設けら
れる次の各号に掲げる施設をいう。」一、園路及び
広場・二、植栽花壇・噴水・その他、修景施設で
政令で定めるもの・三、休憩所・ベンチ・その他、休
養施設で政令で定めるもの・四、ぶらんこ・すべり台
砂場・その他、遊戯施設で定めるもの・五、野球
場・陸上競技場・水泳プール・その他、運動施設で
政令で定めるもの・六、植物園・動物園・野外劇場
その他、教養施設で政令で定めるもの・七、売店・駐

車場・便所、その他、便益施設で政令で定め
るもの、八門、さく、管理事務所、その他、管理
施設で政令で定めるもの、九前各号に掲げる
もの、ほか、都市公園の効用を金うする施設で
政令で定めるもの、というふうに規定されております。
第三条設置区域、変更及び廃止、都市公園は
別表第一に掲げるとおりとする。都市公園の区
域は別に市長が告示する。その区域を変更した
とき、または都市公園を廃止したときも同様とす
る。都市公園の名称は城山公園、沖、島公園、
中村児童公園、三カ所を上げております。
都市公園の区域でございしますが、三つの公園は都
市計画法に基きまして都市計画決定をいたし
まして官報で建設省の告示をさいておる区域

という事でございます。ニ、よう都市公園を制定する
場合には、三、にございます。よう、市長が、その区域
を告示をするという事でございます。

第四條、行為の制限でございますが、「都市公園に
おいて、次の各号に掲げる行為を、一、そうとする者
は、市長の許可を受けなければならぬ。」

一、行商、出店、募金、その他、ニ、よう、に類する行為をす
ること。ニ、業として、写真、または、映画を撮影す
ること。三、興業を行なうこと。四、競技会、展示会
その他、ニ、よう、に類する催しをする。こと。二、四号を
行なう場合、一、公園管理者である市長に許
可を求めなければならぬ。

二項は、その許可を受ける場合には、市長に対して規則
で定める事項を記載した申請書を提出しなければ

ばならないという事でございます。

三項、第一項の許可を受けた者は、それを変更しようとするときは、その規則で定める申請書を提出して、その許可を受けなければならぬ。

四項は市長は第一項各号に掲げる行為が公園利用に支障を及ぼさないと認める場合に限り、第一項及び第三項の許可を与えることができる。

五項市長は第一項または第三項の許可に都市公園の管理上、必要な範囲内で条件を付けることができる。

五条 許可の特例でございしますが、第六条第一項、

または第三項の許可を受けた者は、当該許可にかかわる事項については、前条第一項または第三項の許可を受けるときを要しない。これは都市公園法、第六条第一項、第三項に規定されておるものについて許可

を受けたいものは改めて許可を受ける必要がないということ
で、六条一項、三項について御説明申し上げます。

都市公園の占用の許可といいたまうて第六条「都市公
園に公園施設以外に工作物、その他物件、または
施設を設けて都市公園を占用しようとするときは、公
園管理者の許可を受けなければならない」

第三項は「第一項の許可を受けた者は、許可を受けた事
項を変更しようとするときは、当該事項を記載した申
請書を公園管理者に提出し、その許可を受けな
ければならない。ただし、その変更が条例で定める軽易
なものであるときは、この限りでない。」このように規定さ
れております。

第六条の行為の禁止でございますが、都市公園にお
いては、次の各号に掲げる行為をしてはならない。

ただし、法第五十条第二項または法第六十条第一項もしくは第三項の許可にかかわるものについては、この限りでない。という一事で、一から八までその行為を禁止が掲げられております。

第五十条第二項と申しますのは、公園管理者以外の方が公園施設を設け、または管理しようとするときは条例で定める事項を記載した申請書を公園管理者に提出し、その許可を受けなければならぬ。許可を受けたる事項を変更しようとするときも同様とする。と規定されております。

その下、第六十条第一項もしくは第三項、これは先ほど申し上げました都市公園の占用並びに変更の許可という事でございます。

こういった許可を受ける段階において規制がございます。

で、一応ここに書いてございます。行為の禁止という問題は一般の公園利用者についてのことでございます。第七条利用の禁止または制限、市長は都市公園の損壊その他理由により、その利用が危険であると認めらるる場合、または都市公園に関する工事のため必要と認めらるる場合においては、都市公園を保全し、または利用者への危険を防止するため区域を定めて都市公園の利用を禁止し、または制限することができるといふことでございます。

第八条公園施設の設置もしくは管理または占用の許可申請書に記載事項、これは先ほど申し上げました公園管理者以外の者が公園施設を毀け管理しようという場合には、こういうことを申請書に記載する必要があるということでありまして、項目が掲げ

てございます。

一、場合は公園施設を設けようという場合でござい
まして二が管理しようとする場合、イからホまでについて
記載する必要があるということでございます。

三は許可を受けた事項を変更しようとする場合、次の
事項について記載しなければならぬということござい
ます。

二項「法第六条第二項の規定による申請書に記
載する事項は、次の各号に掲げるものとする。」
法第六条二項と申しますのは、先ほど大条第一項
で御説明申し上げましたとおり、公園施設以外の
工作物、その他、物件、施設、占有許可を受け
ようとする者は、占有の目的、占有の期間、占有
の場所、工作物、その他、物件、または施設、構築

その他条例で定める事項を記載した申請書を公園
管理者に提出し、けいねいはなうない」と規定されております。
二、規定に基づきまして申請書に記載する事項を次
に掲げてございます。

第九条 軽易な変更事項 「法第六条第三項 たい
書」の規定による条例で定める軽易な変更事項は、
都市公園の保全または公衆の都市公園利用に影響
のない軽微な改装等で規則で定めるものとする」とい
うことでございます。

法第六条第三項 たい書でございますが、「条例で定
める軽易なものであるときは、二、限りでない」ということ
でございます。

第十条 使用料及び占用料の徴収 「次」各号に該当す
る者は、それぞれ別表第二に定める使用料または占

用料を納付しなくてはならぬ」ということでござい
ます。

第十二条「前条第一号及び第二号に規定する者の使
用料 または 占用料は、その使用または 占用の許可
際に徴収する。ただし、使用料及び 占用料が半額
で定められてゐるものにあつては、占用期間に一年未
満の端数日数がある場合は月割として計算する。
この場合において一月未満の日数は一月とする。」
第三項「使用料及び 占用料が月額で定められてゐる
ものにあつては、占用期間に一月未満の端数日数が
ある場合は一月として計算する。ただし、占用期間が
十五日以内の場合には月額が半額とする。」
第十三条「使用料または 占用料を不還付し、既納の
使用料 または 占用料は還付しない。ただし、次の各

号に掲げる場合はニつ限りでない。」

一、「使用者または占用者の責に帰することゝできない理由により」その使用または占用ができなくなった場合、「これは公園管理上」の維持管理上「の計画変更とか、天変地異による災害」の場合がこれに該当するかと申すべし。

二、「使用または占用開始前に当該使用または占用許可の取り消しを申し出て相当の理由がある」と認めらるるとき。」

第十三条 使用料 または 占用料の減免、市長は、使用料または占用料を納入すべき者が次、各号の一に該当する場合においては、その者にかかわる使用料、または占用料、全部もしくは一部を免~~除~~除することができる。」ということまで

掲げてございます。

第十四条 監督処分 「市長は次の各号の一に該当する者に対してこの条例の規定によつて許可を取り消し、その効力を停止し、もしくはその条件を変更し、または行為のうち中止、原状回復、もしくは都市公園から退去を命ずることができ、^る」^るという一事で一から三まで掲げてございます。二項として「市長は次の各号の一に該当する場合においてはこの条例の規定による許可を受けた者に対して前項に規定する処分を、または同項に規定する必要な措置を命ずることができ、^る」^るという一事でございします。

第十五条 届出でございしますが「次の各号の一に該当する場合においては当該行為をした者は、

すみやかにその旨を市長に届出なければならぬ。

法第五条第二項ニおは先ほどの公園管理者以外
者が都市公園の施設を設置し管理する場合
そのうち第六条第一項第三項都市公園の占用
或いは変更の許可を受けた者が公園施設の設置
または都市公園の占用に関する工事が完了した
とき届出なければならぬ。

二、前号に掲げる者が公園施設の設置若しくは
管理、または都市公園の占用をやめたとき。

三、第一号に掲げる者が法第十条第一項の規定に
より都市公園を原状に回復したとき。法第十条第
一項には、第五条第二項または第六条第一項、も
しくは第三項の許可を受けた者は公園施設を設け、
もしくは管理する期、もしくは都市公園の占用の期

が満了したとき、または公園施設を設置もしくは管理
もしくは都市公園の占用を廃止したときは、ただちに都
市公園を原状に回復しなくてはならない。ただし原
状に回復することが不適当な場合においては、この
限りでない」と規定されております。

四、「法第十三条第一項または同条第二項の規定によ
り同条第一項に規定する必要な措置を命ぜられた
者が命ぜられた工事を完了したとき、」
これは第十四条の監督処分、条例とほとんど同じもろ
ございます。

罰則として第十大条「次号の二に該当する
者に対しては、二千円以下の過料を科する。」

一、「第四条第一項または第三項の規定に違反して同条
第一項に掲げる行為をした者」それから「第六条の

規定に違反して同条各号に掲げる行為をした者に
よからう「第六条の規定に違反して同条各号に掲げ
る行為をした者」三、第十四条第一項、または第二
項の規定による市長の命令に違反した者に
四「第十五条の規定に違反して同条各号に掲げる
届出を怠った者」第十七条「二、条例の施行に関し
必要な事項は規則で定める。」附則として「この条例
は昭和四十三年四月一日から施行する。」

以上で説明を終わります。よろしく御審議のほどを
お願いいたします。

○二番（小柴孝君）一つ質問いたします。第六条で
一般公園利用者はこういうことをしてはいけないと
あります。第十六条はこういうことをした場合に二
千円以下、罰金に処せらるるということでありま

がおおむね、第六条のよう、違反行為」というのは、人が見てないようになっていることが多い。従って、こういう問題に対して、予防措置はどういうふうに講ずることができるか。

・土木課長（飯田治男君）できる限り公園の見回り等をして、みんぱんに行かないように、そういった行為がないように、極力注意したいと思います。ただ、夜間の場合、職員の巡回ということもできません。なるべく土曜・日曜、利用者が多いときには、極力係が公園を巡回し、また、警察等も御協力を得ようとして、取り締まる、いきたいと思います。

・二番（小柴孝君）私も質問いたしましたが、簡単なようでは、なかなか実行できない。たとえば、海岸地帯あたりにある公衆便所とか、そういう公共施設とい

うものはだれがいたづらするか。わからないうままで放置して
おる。また気がついて修理をしてもすぐ荒らさる。

これは公德心の高揚という問題からいきますと、教
育上の重要な問題になると思ひますか。いづれに
も、こういう人たちがやはり公共施設を破損に導
いていて不愉快な気持ちになるというところでござい
ます。この条例全般を通しまして非常に緻密
によく規則はできておりますけれども、この中で一番
大事な問題は、それではないか。せつかく大勢の人が
楽しみにくところが一部份の人がために破損して不愉
快な思いをする。二十月以下の罰金にということであ
っても、そのとき権限を持っておる人がおればいいん
ですけれども、今課長さん、説明ではもう足りな
いんですが、もうクー、突っ込んで、こういうことうないように

つまりめところで公費の使われ方、こと、ないやうに御努
力願いたいと思います。

・二番（石井輝久君）教点につきまゝて御質問申上げ
ます。

ただいまの先輩小柴議員の御質問とも若干
関連するところがあると思つてございますか、
こゝうした相当きぶりの規制措置を伴つた条例で
ございますか、とかくいたしますと、有名無実になる
おそれがありはらないか、これを第一番に感ずるわけで
ございます。こゝ点有名無実に終らせないやうに実
施していく確信が、おありかどうか、まず、御質問
申上げます。

話が飛びますが、かつて十年位前でございまゝうか、
奥都千葉市におきまゝて移動式、赤ちうちん、屋台

を全面的に規制したことがございます。

ところが現在いって見ますと、町に移動式、屋台などは入
んております。そういったことで、朝令暮改、そういうたこ
とが将来果たらないかどうか、実施に確信を持って
おられるか。まず、第一点、御質問申し上げます。

次に第十文条の過料、二千円でございますが、この過
料二千円ときめた積算の基礎をお示し願います。
次に第三点でございますが、別表に掲げてございます
使用料、占用料でございますが、この客体の把握と
申しますか、対象の把握と申しますか、大体どの
程度、収入見込をしておられるか、この点を伺
います。

次に歳入面で使用料、占用料として将来計上さ
るべき性質のものか、はなからうか、このように考える

んですが、その場合に条例がきょう追加提案されたのでございりますが、歳入面でもう位補正をさしてどうか、補正をさするとすれば、いつ補正をさいる御所存か、その点をお伺いしたいと思います。

なお念うために条例が最終日に追加提案されたのでございしますが、その理由は先ほど課長さんう提案理由の御説明の中にもございまして、たおそうく城山等、国と貸貸借の関係で遅れたものと、思います。念うために国と貸貸借を結んだ契約年月日をお示し願いたいと思います。

それから、さうに一点、この条例の適用範囲の中にございます。中村公園でございしますが、中村公園の夜間の実態を把握されたことがございしますか、見聞をされたことがございしますか、念うために伺って。

おきたいと思ひます。答弁によりまして再質問を。

土木課長(飯田治男君) 第一点、行為の禁止についての取り締まりでございますが、この条例を制定しますれば、今後我々としても強力におい進めて参ります。取り締まりをする覚悟であります。

次、十六条、二千円以下の過料ということでございますが、この条例を制定するにつきまゝでは、建設省の都市計画課より、通達がございます。一応都市公園条例の例、ひながたというものが、果並に關係市町村に送付されております。それを参考にいたしまして制定いたしたものでございまして、第十六条、二千円以下の過料というものについても、そのときひながたにこういうふうにきめろということ、指示がされておるかとございます。

第三点の使用料、占用料、収入見込額ということ、

でございますが、今まで館山市内の公園というものが、

市の方で、権限を持っておる場所と申しますと、中村

児童公園程度のもので、ほかはみな国有地等である

もので、占用等の申請がございまいたときには、

一応道路の占用と同じ扱いで今までやってきたような

わけで、ここ十年来公園に対しての占用という問題は

一件もございません。この条例制定に伴います

使用料・占用料については、かきもくどうの収入があるか

ということは、今やところまだ見当もついてない状態であ

ります。そのような占用の申し込みがあつた

段階において、一応年間占用料等を算出しまし

て早い機会に補正したいと考えております。

それから城山公園の国という無償契約の締結でござい

ますが、今大蔵省宛に無償貸付けの申請書

を出してございまして二日前だったと思いますが、千葉の
財務部の方長と第三課の課長さんが見えまして調
査されて早い機会に契約をいたしたいというところで口答
で一応同意をいたしてございまして、都市公園とし
て取り扱いはしてもいいと思うわけで、条例の中に
城山公園を入れたもろでございまして。

中村児童公園の件でございしますが、最近夜は私、現地に
行って見たことがございません。

・二番(石井輝久君)再質問いたします。過料でございま
すが、過料の積算の基礎は、建設省の都市計
画課の通達ですか。御参考にされたそうでございまして。
そうとすればサプル・ひながたがございまして、この通達は
二千万を示さしておるものかあるかどうか。これを伺い
たいです。それで、二千万を通達に示さいて

おった場合には千葉市でもおそうく二千円である
 ことはなからうか。或いは富津あたりですか。そう
 いうところでそうではうか。館山市の実態を勘
 案して過料二千円という口で二千円といいますが、過
 料でございますが、一つ、罰則、罪でございいますか
 ら。当市の実情を御勘案の上、二千円と定められ
 たいか。その点をさらに伺いたります。それから
 収入見込みと追加提案の件でございしますが、早い
 機会に実態を把握して補正されるとうお答えで
 ございますか。その点はよろしゅうございますか。
 収入見込みが皆目わからないというお話でござい
 ますが、大体今市議会に市民センターの条例も
 提案されております。これは先ほど委員長報告通
 り、可決せられたわけでございますが、全く新しい試

みといたしまして市民センターの使用料として百三十万計
上されてゐるわけでございます。全く経験のない白紙
で百三十万計上されております。客体の把握という
ものが通格かどうか。歳入欠陥が生ずるかどうかは
わかりませんが一応計上されております。この条例は
もちろんただいま審議中でございますから、まだ計
上できなかったことはよくわかります。

それからさらに申し上げますならば、契約でございますが、
契約もまだ進行途上でございます。口答り内示
程度しか得てない。従いまして準備期間がないこ
ともわかります。一か一ながら、一応条例を提案し
まして使用料、占用料を定めようとしておられるん
ですが、客体の把握、それは若干の見込み違い等も
ございましょうけれども、できないものもございますか。

もう一度御質問申し上げます。客体の適切なる把握ということはおけり行政上必要ではなからうか。二つように考えます。

それから先ほど質問の最後に中村公園の夜の実態を把握されたかどうか。これは私も久聞いたしますところになります。はなはだしく風紀が紊れておる。今小柴議員からの御質問もございまゝた第六条、公園を損傷し汚損する等の行為の禁止事項がございますか。おそろく夜の实態をつぶさに見聞されますと、第六条に抵触し該当する行為がかなりあるのではないかと。若い男女の方々つどいう場所になつておるということも久聞いたしております。二つ点は、いったことがないことではございますから。それでよろしう。

ございまして。将来、小柴議員等が質問が関連いたしますから、私はこの点は打ち切りますが、将来取り締まりの強化という面だけでなく、観点をかえまして、指導の方法を考えていただきたいと思います。

それからもう一点、関連いたしますけれども、過料の課し方の手続き等につきましては、どうようになっておるか。或いは告発されるか、自発の手で過料を課するのか。どうような手続きを取るのか。以上の点をお伺いいたします。

市長(本間義君) 大へん専門的な御質問をいただきます。て、本当にこちらも面くらうておるわけでございまして、罰金の件でございまして、これはおそらく罰金を取るようなことはないかと思っております。そんなによい

悪性の人には館山市におられないと断ります。

ーカーながら、やっぱり、こういう法にまづ二千円というこ
とが定められて通知がきておるわけでございますから、
それが妥当だろうと考えて御提案申し上げた次第で
ございます。それから予算計上、収入がたいというまう
なお話でございますけれども、これは最初正式に借り
入れるという見通しがつかないわけでございます。一
大体見通しがつかないから追加議案としてここに御審
議を願うおるわけでございますから、従って予算
審議も終るおります。今、これはもう追加
するということも御迷惑になりますから、これは早い
機会にやはり参りたいと思ひますが、現在城山の花見
時期でもございます。あそこを使用したい。老店を
出したいという人もおるわけです。それも五月か六月

花の時期ですから、やはり追加議案として一応これを御承認願つておく方がいいわけでございます。まあ、むづみに取るわけにいきませんから、それで追加でお願いしたわけでございます。

それから、取り締まりのことでございます。中村公園の夜間のことでございまして、なかなか夜間まで公園を回すやるといふのは、敬告案でない以上、困難だと思ひますけれども、夏あたりは、やはりまた頼んでやりなうと思ひます。今、労務管理の問題が、まあ、くう市長といえども、おまえいって見ろというわけにいかない。職員に対す。

それから罰金のお話でございますが、この点につきましても、あまり罰金を取ったことがありませんから、よくわからなうですけれども、或いは敬告案に頼んで

あるか。或いは校事局に頼んで罰金するうだが、
その点につきまゝでは研究いたっておりませんから、研
究して申し上げたいと思います。以上です。

。二番（石井輝久君）過料の点わかります。

大体の建設省に算定基礎もございませう！
過料につきまゝでは了承いたしまして。まあ何とい
ましようか。罰則強化ということは行政上、あまり敬
迎すべきことではないが、ございまして、ただいま、市
長さんや罰則の適用というものは、ないであらうと
いうお言葉でございます。

適用されないことを期待いたしまして、この点は質問
を打ち切ります。

異態の把握、これも早急のことでございますから、
無理であったかもしれませんが、従いまして、その点も了

承いたします。

中村公園の夜間巡回等につきましても、実際い
べくしてなかなかむづかしい。将来これは何らか
のうまい運営方法をお考えいただきまして、この条
例制定が有名無実にならないように一つ、とくと主
管課の方で、お考え願いたいと思います。以上を
もちまして質問を打ち切ります。

。二番（中村省吾君）簡単にお願いいたします。

第二条の第二項で「公園施設」ということと第八条の
方でいう「公園施設」、第二条でいう「公園施設」
を第八条でいっておるのかということが第一点。

おそらくそうだろうと思います。

そこで、そういうことだとして、第八条の中で「公園施設」
を管理しようとするときは、ということは、具体的に

でき上つたものを使うという意味の管理、そういうことだと思ひます。第一項は設けようとする場合、こゝはつきりなどういふことかというところでございす。

それから、私ゝ考え方としては、第二條でいう公園施設という意味に取りまして、そういうことだと思ひます。

第四條に關係することで行商、出店、その他、それから

第八條の施設を設けようとする。こゝいうことで、

いふ許可基準があるわけでございます。こゝの場合

にはある人が許可を出して、その人本人が一年間、

管理をして、その次に現実の場合として、次の年には

ゐる。一かゝ依然として、だいかうところに許可

がいつてゐる場合が出てくると思ふ。そこで端的に

申上げますが、この條例の中で、縣念をいふが、そ

こにあると思うんです。

たとえば申し上げますならばある特定の人が一つ権利を確保しておく。許可を取って、そうしてその許可を乱用することが起きないか、自分が許可を取ってある特定のはかり人に権利を譲渡するとか、貸すとかという場合が位々にあるわけなんです。

不当な賃金を取るという場合が出てくる可能性がある。こふらに対する条例はどうかうになつてゐるのかという点がある。とぼけてゐるだけではいかと思ひます。なお、第八條に「関連」までしてもこの施設を仮りにあそこにかまげもう店とかそういうものを何軒か作る。そういう場合場合にそのみかげもう店を許可を受けた者は、個人である。それをだれかに貸すというふうなことが考えられ得ることなんです。

従つてそういうことまでもこれは許可してやらすこと
がどうか。具体的に申し上げましたので、その点を御
答弁願いたい。なお第二点は、この城山公園に
限り申し上げますと、城山公園のこの条例とくじや
園の管理との関係はどうなるか。公園内にくじや
く園が設置されるだろうと思いますが、くじや園の管
理ともちろんくじや園の方の施設、その他問題が出て
くると思つてんですが、そういうものと「本条例」との関連
性は、どうなすおるのか。以上であります。

土木課長（飯田右男君）第一点の公園施設でございますが、
第二条の「公園施設」と第八条の「公園施設」は同
一のものでございます。この公園施設に関する制限
というものが、都市公園法の施行令第七条で一応き
まっております。政令によりまして、その都市公園に依

「本市の公園管理者である市とそういう公園施設の
 の設置並びに管理を許可した方と相談しなければ
 ならないと思います。それと、そういうことのないように
 第四条の第五項で市長は第一項または第三項の
 許可に必要な条件を付けるといふ欄がござります。予
 最初の許可をする時点でそういうことをはつきり条
 件に付いたと思います。」

それからくじやく園の管理でござりますが、これはやは
 リ、都市公園内、城山公園内、施設の一環といた
 一まとめで管理は、この条例による管理といかなけ
 ればならないと思います。」

ニ、番（中村省吾君）第一点の問題で第四条の第五項
 の中で嚴重に条件を付すというところで結構だと思
 います。が、くじやくも申し上げたいのは、先ほども申し上げ

まーたようにえてーて三ついうことがある。特定ウボスウ
何か食いものになるという場合が起きやすい。

従つて同一人が、長く許可だけ持つておつて自分ウ名前
で何かやらせる。そこにおかーなものが出てくる。良心的
のものが入ろうとしても、地域的に入れない。従つて
その人ウ名ナリを借りて入る。こういう場合が出て
くる。よそでもそういうことがあるわけでございます
が、そういうたことがないように嚴重に条件を付て
いただきたい。それからもちろんくじやく園ウこの条件
でということでもございますけれども、何かくじやく園に
関しては観光課長ウ考えていかとうことになりま
すが、くじやく園に關する限り、また特殊な条件と
いうものが出てくるのではないかと思つた。くじやく園内
のいろいろ出入りの問題、設置条件ウ問題、そう

いったものがただ公園内この条例をそのまゝ横流
ードーただで運営がつかどうかということですよ。

この点 観光課長さんの方をお考えどうですか。

・商工観光課長(山田俊康君) くじやく園の場合、現在、城
山公園のいろんな施設がございますけれども、展望台
或いは植栽、つット、つばき等ございます。

それから同様に今後もしやく園は市の施設として公
園施設として扱っていきたい。そういうふうに考えてお
りまふ。

・四番(伊賀多朗君) ミニ公園の名前が出ております。
そううちや神の島公園について若干お伺いしたいので
あります。現在、施設、現状、簡単に結構で
ございますから、それから先般、通告質問のとき
に館山市の開発計画、館山湾の開発計画というよ

うなことにしてお伺いいたしました。そのことに関しましては、その島公園、このものをさらに近々施設をするというふうな考えがあるかどうか。開発計画の中で予定がございまして、聞かしていただきたい。といいますのは、第三点といたしまして先ほど小柴議員、石井議員の話と若干重複いたしますが、第六条の問題がございまして特に今年はキャンプを禁止したというふうな事実がございまして、これを禁止というたてまえからどういうふうに夏対策をお考えに打てるか。

土木課長（飯田右男君）第一点、沖の島公園の現状でございまして、四十二年度で今まで荒らされておりました休憩所を全部なおしまして、鉄筋コンクリートで改修いたしました。それとベンチ等も数個

備えております。それから島の中央が雑草にうずもれておりまゝたうをえけり。四十二年で全部取り払いまゝて広場を作つてございます。

それから沖の島も開発計画でございすが、今のところ市の方でこれという開発計画はございません。ただ四十三年度でみなさんに御審議願ひまゝた予算の中で便所を新設したいと思つております。

・商工観光課長(山田俊康君) 沖の島公園の開発計画であります。この議会で御審議いただきまゝた企業誘致条例の一部改正等もおりまゝて従前話題に上つております。また速やかに館山湾の沖の島にこゝろするうちに今後とも努力していきたいと思つております。

夏の対策については特に海岸線が非常に長いので

沖の島公園、みなさん、ういさいの場所として当然使わ
れるわけですので、重点的に見回り等を強化して、
おつていきたいと考えておりますけれども、特に昨年一
等、例を見ますと、沖の島にいらっしゃるお客さまが
いさか、いさかあそこではございませんで、なお、海岸線が
長いために沖の島だけ重点的にというわけに参りま
せんので、手落ちりないようにキャンプ対策等もあつて
参りたいと考えております。

・四番(伊賀多朗君) 第一点と第二点につきましては了解
いたしまして。

第三点につきまして、特にキャンプのことではございませ
が、あそこは、特に離れておりますので、住民が住んでな
くて、キャンプは、重点的にあそこを選ぶ、また、キャン
プができるということが、館山市が大きなイメージになつ

ていたことでございますから。今年ははじめての禁
止というところでございます。その点、御留意をす
めあげないよう、いたしたいと思います。か
の第大条の小柴議員のお話になったもう、公園を
保存するというふうなことも、十分御留意いたした
いと思います。そのため、対策を十分立てていた
きたいと思っております。以上で終ります。

・一回番（遠山ヨネ子君）第ニ条 さっきは権利を取っておい
て、大々ということに重点を置いており、たが、たとえば
お祭りがあつたといったりますと、このとおり、届をう
て店を開くかもしれないけれども、そうでなしに知ら
ないで、いつて、商売、もうという人も、かわりあると思
う。私がつて、怪訝、たのは、婦人会で電話で了解を
求めて、無料休憩所で食べるものを売ったんです。

そうしますと、いつの間にか、ボスという人が出てきまして、私たちだけでなく、ほかの店の人もおどかす、あなた休憩所に権利を持ってるのか、というところ。そこは、はつきりしないで、おまえたちは、ここで商売するところではないから、ととめていけ、というわけでももちろんなく、です。

こういうふうに、いつの間にか、親分ができる、ということはいくあることで、それを私経験があるからに配ったんですが、それからもう一つ、教えていただきないと思います。都市計画内で、地方公共団体が、こういう都市公園とか、公園施設を設置する、というお話ですけれども、これは、予算、市議会にお休みのたて、わからない、都市計画案が、図面になつて、いるんですか、その中で、こういう公園が作られたとすると、現在、いわゆる、山、市、都市公園に、城山、神島、中村児童公園

二ふだけが、その中に入るんで、将来条例の都市公園
の中になどえば、私が一番ほしいと思うのは、児童公園が
ほしいんですけれども、この条例にできる御予定があ
るか。もし予定がある場所をいついただければ、
いつてほしいと思います。

土木課長（飯田右男君）城山公園の出入り関係でござい
ますか。この条例が制定さなければ、先ほども申し上げま
したけれども、現地の巡視等を強化いたしまして、
警察等との協力を得まして取り締まっていきたいと
考えております。都市計画図というお話なんです
が、ここで御説明しました都市計画区域と申します
のは、都市計画法より第二条に「都市計画区域は、
市または前条の町村により、主務大臣の認可を
決定す」というふうに規定されております。館山

市は全域が都市計画区域内に一応指定されております。その都市計画区域内でということは、館山市全域の中で、地方公共団体、市が設置した公園であれば、都市公園に該当する。ただ、土地が他人の土地でたとえば、市が公園の費用を投じまして公園を作ってもそれは都市公園の対象にならぬということでございまして、城山公園は先ほど申しましたとおり、今月中に無償貸し付け契約が結ばれるわけで、神島は三十八年に国との契約を結ばれております。

中村児童公園につきましては、ある公園を設置するときに中村先生の方から寄贈いただいたもので、土地は館山市のものになっております。

今後、問題といたしましていろいろ地主さん方と折衝いたしまして、土地の方の同意が得られれば都市

公園の中に現在ある公園を入いまして維持管理をしていくようにしたいと思ひます。

児童公園の増設見込みでございますが今まで都市計画及びその計画も三十四三年度で一応樹立する。策定する計画にならうござります。それと用途地域や指定、そういつたもう計画がござります。まだ公園の方も計画策定段階までいっておりません。なるべく早い機会に館山市内の児童公園の配置という問題も計画をまいて実施していきたいと思ひます。ただ、福祉事務所の方で児童福祉法によつてだいたい児童公園なんかも設置しております。もうなやで、その中で都市公園に該当するようにならうが、あつたば都市公園としてこの条例で管理していきたいと思ひます。

二四番(猿山ヨネ子君) 最初の問題ですが、児童公園が大

軒町にはーいと思ふんです。開港公社で買つてゐる
地所のあたりについてうわさは聞いてゐるんです。然
全然計画はないんですわ。南町とか六軒町とか人の
多いところにできることは結構なんですわ。
土木課長(飯田治男君)ただいまの点ですが、まだ計画
はございませぬ。

議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございませぬか。ーなし
と認めます。

おはかりいたします。本案を討論省略採決するに
御異議ございませぬか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案通り可決するに御
異議ございませぬか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。まづ本案
は原案通り可決さうなりました。
暫時休憩いたします。

午後三時十八分 休憩

午後五時四十分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
本日の会議時間は議事の都合によりあらかじめ
これを延長いたします。
これに御異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。まづ本案

時間は延長さへした。

日程第六、議案第四十六号についての説明を求めます。
。商工観光課長（山田俊康君）館山市附属機関設置条例
等、一部改正、この第一条で附属機関設置条例の
一部改正、第二条で非常勤の特別職の職員にかか
わる報酬及び費用弁償の關係の改正をお願い
しようとするものであります。

第一条で附属機関設置条例別表中に次の事項を
加える。

館山市くじやく園運営審議会を新たに設置して、
くじやく園の運営に関する重要事項を調査審議して
いただくというのであります。

くじやく園自身の現在、計画はくじやくを主体とした
鳥類センター的なるものに漸次発展的に大きくして

いこうというような計画を持っております。

新しい計画でもあります。まあ、いきなりでも
ありますので、これが実施につきまゝでは慎重に
まゐらうという事で、運営審議会を
お願いしようという事です。

第二条の家庭相談員、次に結婚相談所相談員、
所長、この関係についてはのちほど秘書課長から説明が
あります。

くじく園の運営審議会、委員千円、これは他の委員
と同様に日額千円を費用弁償として支給しようとい
うつもりであります。

・秘書課長(小倉登男君)御説明申し上げます。

ただいまあります結婚相談所長並びに結婚相談員
の月額報酬を決定お願いするに当りまして一言御

説明申し上げます。

第一次産業、農村後継者の問題。都会にどんな人
口が流出して、もうとうとうなことで、特に果実から
農村青年の結婚相談。さうに農村の後継者を
育成しようという指示事項が回つて参りました。
本市といたしまして、市民福祉増進のため措置と
いたしまして、農村、漁村の青年を中心にいたしま
した市民金銭的な結婚相談所を設けて、これを
市長の所管事項の一つといたしまして、秘書課の市
民相談室と窓口といたしまして結婚相談所を設
けて市民の福祉増進をはかろう、いきないうち
でこれを決定したのでございますが、こゝにつきま
して地方自治法二百三条の規定によりまして、その結婚相
談所、御相談を申し上げる相談員並びに相談所

長、月額報酬をここに三万円と三万円をお願い
—次第でございます。よろしくお願いいたします。

ニ五番(田村源治郎君)ちよとお聞きします。結婚相
談所長ですが、これはどういう人を選ぶんですか。

市長(本間譲君)これはとにかくも、人格が高くて
信頼をさかる人を厳選して参りたいと思います。
とにかく結婚の心配をする人はいずれも人格いろ
んな面について立派な人でなければいけないと思いま
す。そういう人を選びます。

ニ五番(田村源治郎君)人格識見の人といいますが、
政治的意識のない人を市長さんは選ぶ。それとも
政治的にある人を選ぶか。

市長(本間譲君)政治的とは、だれでも政治的といえ
ま—うが、あんなにおつちるのは自由党とか、社会

党とか、共產党とかをおっしゃるんですか。適当な人であれば、何党でも結構だと思ひます。その党にはこだわらないで人選いたします。

議長（吉田勇治郎君）御質疑ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。

よて本案は原案通り可決さうなした。

本日の会議に小次恵太郎議員ほか六名の方から、
議会委員会系例の一部の改正系例及び請願書一
件が提出されております。

これを本日の日程に追加し議題といたすと思つて
こゝに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よて日程は
追加さし議題とすることに決まりました。

議案を配付いたします。

(議案配付)

議長(吉田勇治郎君) 議案を配付するはございませぬか。
——なしと認めます。

議案第四十七号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第四十七号 館山市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について

議長(吉田勇治郎君) 提案説明を求めます。

二番議員 小沢忠太郎君 御登壇願います。

(二番議員 登壇)

二番(小沢忠太郎君) だいま議題となりまいた議案第四十七号について提案者を代表いたしまして御説明申し上げます。

本案につきましては、去る十一日の本会議において議決された館山市部課設置条例の一部を改正する条例の制定に伴いまして、館山市議会常任委員会に所管する事項を改正いたしたいと思います。お手もとに配付した議案のとおり、今回提出いたしまして、次第でござ

ございます。なにとぞ満場の御賛成を得たく提案者を代表してお願い申し上げる次第でございます。

(拍手)

議長(吉田勇治郎君)本案に対して御質疑ございませんか。——なしと認めます。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

次に国鉄バスのワンマンカー乗り入れ延期の請願書を議題といたします。

(書記朗読)

議長(吉田勇治郎君)本請願書に対する趣旨説明を

求めます。

一九番議員 島野茂樹郎 君御登壇（願います）。

（一九番議員 登壇）（拍手）

一九番（島野茂樹郎 君）ただいま議題となりまして国鉄ワニマンカー乗り入れ計画を延期しては—い。

こ—う—う—請願に—対—し—ま—し—て—そ—う—趣旨—並—び—に—理—由—の—一端を—申—上—げ—ま—し—て—満—場—一—致—御—採—決—く—だ—さ—る—よ—う—お—願—い—申—上—げ—る—次—第—で—ご—ざ—い—ま—す—。

ま—ず—請—願—の—趣—旨—で—あ—り—ま—す—け—れ—ど—も—国—鉄—館—山—自—動—車—営—業—所—で—は—館—山—白—浜—千—倉—間—に—ワ—ン—マ—ン—カ—ー—を—乗—り—入—れ—る—計—画—を—進—め—て—お—り—ま—す—。

ワニマンカーになつた場合に私ども利用者にとつては大（へん）不便になり—ま—す—。交通障害の危険を増大—し—た—り—ま—す—。こ—ら—に—バ—ス—運—転—を—い—た—す—上—に—非—常—に—

大きな負担になります。いわゆる労働強化となる
というところでございます。

従つてこの計画を延期するように市議会や御協
力を願ひたいというのがその趣旨であります。
次に理由をおもなものとついで申し上げたいと思ひます。
まず一つは交通対策上の問題があるということであ
ります。御承知のように交通量は年々増加を
いたしております。交通事故の件数もますます
増加してゐるという事は私が申し上げるまでもござい
ません。交通戦争という言葉が生まれてゐると
いうことでも明らかでございます。

当市におきましてもその対策に心をくだいておりま
して交通安全都市宣言をいたし、交通安全協会
に対する補助によつてこれを強化をする。さらに、

交通傷害保険の実施をするなど各種の施策をして参つたところでございます。

車両が激増いたしますにもかかわらず、道路整備というものが間に合っていないで特に市街地ではバスがすべちがいが困難などの混雑ぶりでございます。

従つてバスが誘導、万一の場合乗客が適切な処置、その安全の確保のために車掌さんはぜひとも必要でほしいかと思ひます。

その次に乗客の中に車掌の手助けが必要な利用者がたくさんあるということでもあります。利用者の中には幼稚園の園児、学童、身体障害者、老人、このように車掌が親切な手助けがなければ、その恩恵に浴することかできないというような人がたくさんあります。

母親が全幅の信頼を寄せて車掌に園児を預けて

あることでありましょう。杖をついた老人や、身体障害者、こけらうの人がバスを利用できるのも、車掌の手助けがある、よばこそということができる。

小学校の低学年の生徒、バス通をなにくれとなくめんどうを見ているのも、車掌であります。自分で身が始末できない人はバスに乗るなというふうなことになる、これはいいか。クー酷な話であるというふうに考えるものでございします。

それから車掌は館山の観光都市の案内役である、ということでもございします。

当地区は南房総国立公園の中心でありまして、館山、白浜、千倉を結ぶ国鉄バスはその輸送の大動脈であることはいうまでもございしません。ここを訪れるお客の数も年々増加しております。不案内な場所では

バスに乗って頼りにするものは車掌であり、そう親切が
身に―むのは、私どもも旅先でよく経験するところであ
ります。観光客は必ずしも観光バスを利用するとい
うことはいないと思います。定期バスを利用するものも
たくさんあるはずであります。けれども土地案内、或い
は観光案内について車掌が果す役割は非常に
大きいはずであります。録音テープによる案内を考えて
いるというかなことも聞いておりますけれどもあくまでも
録音は録音でありまして自分の聞きたいことを聞くこと
ができない、もどかしさ、これを一体どう解決したらよろ
いでしょうか。館山市がめざす観光都市建設の
ためにも優秀な車掌の協力を求める必要があるとい
はないか、かように存じます。

その他にも料金が同一線であるとか全線二つ位だとい

単純な料金制度であるならば、別でございますけれども、非常に複雑な料金のようにございますから、老人や子供には運賃表を見ただけではとても運賃を知ることにはできないでしょう。料金表を見ようにも見ることもできないほど。こみ合うこと多い路線であることも見のがせない点であります。バスに乗るときは小銭を用意するという抱束をいらぬことでもあります。この運賃払いに要する時間、すなわち停車時間が相当長くもなるでしょう。金線の使用時間が今までよりも延長されることになろうかと思ひます。かぞえあげれば、私たち利用者にとても不利益、不便になる点はまだあると思ひます。最後に私たちは運転者のことを考えざるを得ません。今まで車掌がーいた仕事、一切を運転をーながら

せなければならなくなるわけでありませう。

乗り降りするも客が一人一人に注意を払う。乗車地点を示す切符を持ったかどうか、或いは切符と降りるまでの料金の計算、料金の収納、或いはつり銭の払いもの両がえ、なかに運転手に話しかけて質問することもあると思いますが、それらに対する応答、案内、何から何まで一人でも、運転しながらゐらなければならぬわけでありませう。荷員の場合も交通の激しい市街地、或いは夏の海水浴シーズン等には相当神経をすりへらすことになるかと思ひます。一かも当然乗車時間がかかるようになるのでありますから、他の交通にも悪影響を及ぼす結果ともなり、それがまた運転車に精神的な重みを加えることになりはしないか。以上おもな理由を申し上げましたけれども、要す

るにワニマンカーの運行は、私ども利用者にも不安と
 とまどいと不便を与えるものである。道路事情、そ
 の他、当地の特殊性を十分考慮したものでないとい
 うふうに考えます。こゝらの障害を一つ一つ取り除
 く対策と努力を重ねてほしいところでございます。
 従つて、今、ただちに実施されることは時期が、尚早
 でありまして、これを延期をして下さるよう、強力
 にお願ひするものでございます。

私は五千七百名、署名者とともに本議会が満場一致、
 地域住民の切実な請願を御採択下さいますことな
 にかう念願いたしまして、趣旨の説明といたします。

(拍手)

議長(吉田勇治郎君)本請願書に対する御賛成ございませ
 ぬ。——かしと認めます。

こゝより本請願書に対する採決を行ないます。

本請願書を採決と決めますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よつて本請願は採決と決めます。

ただいま小沢恵太郎君ほか六議員よりただいま採決さしよつた請願書にかかる意見見書案が提出さしよつた。こゝ際、これを日程に追加し、議題とすることに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よつて意見見書案を日程に追加し、議題とすることに決めます。こゝ際、意見見書案を配付いたします。

(意見書案配付)

議長(吉田勇治郎君)配付漏れはありませんか。――なしと認めます。意見書案を議題といたします。

(書記朗読)

議長(吉田勇治郎君)説明を求めます。登壇願います。

(三番議員登壇)(拍手)

三番(小水忠太郎君)ただいま朗読せられました意見書について、提議者を代表いたしまして御説明いたします。

先ほど市内五千七百有余名の署名にまいりますところ、請願書がふたつありまして、これに対してまいって、その意見を尊重しまして採択と決したわけでございますが、現在、館山市の道路交通の状況、またこれを利用するところ、市民のワンマンカーに対するところの認識程度、そう

いうことを考えて見ましたときに、このワンマンカーの乗り入れが時期尚早であるというような感持をもちまして、ごいます。従いまして本議会にまきましてこの採決を決定して、うでございしますが、この本旨にのっとりまして、地方自治法の九十九条第二項、この規定にまきまして先ほど朗読いたしまして、このような意見書を日本国有鉄道自動車局に対して提出いたらないと思うものでございします。どうかみなさま方の御賛成を得ないと思う次第でございします。よろしくお願いいたします。（拍手）

議長（吉田勇治郎君）本衆に対してまして御質疑ございせんか。——なしと認めます。

本意見書を原案通り認めることに御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決さうな。

本意見書は後刻関係方面にお届けすることになります。以上にもう三月九日招集の第一回市議会定例会に付議さうな全議案はことごとく議了さうな。よつて本定例会をこゝにて閉会したいと思います。

こゝに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よつて第一回市議会定例会は本日をもつて閉会することに決まらな。

非常に長い会期中、数多くの重要案件の審議に尽くさんまことのご苦労なまでにごうまいな。(拍手)

午後 六時十三分 開会

本日の会議に付いた事件

一 議案第四号乃至第十号 予算審査特別委員会委員長報告

一 議案第四十二号 乃至 第四十六号

一 議案第四十七号 館山市議会委員会条例の一部を改正する条例

制定について

一 請願書

国鉄バスワンマンカーの乗り入れについて

出席議員

吉田 勇治郎

石井 輝久

嶋田 石 蔵

伊賀 多朗

藤田 益 治

磯 辺 博

白熊 盛太郎

黒 川 正

三幣

勇

西村真次

菊井敏博

小柴孝

山田教宇

遠山三子

石井正

五十嵐昇

江田徳太郎

安西益男

島野茂樹郎

中村省吾

関武夫

小澤恵太郎

飯田義男

田中禄郎

田村源治郎

秋山大三郎

安次徳順

望月照正

山口康

大原席議員

鈴木市蔵

出席説明者

一 第一日目と同じ

出席事務局取員

一 第一日目と同じ

昭和四十三年三月二十八日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

吉田 卓郎

同 署名議員

田中 祿郎

同

田中 祿郎

